

あいさつ・掃除・時間を守る ～2学期始業式校長式辞から～

2学期の始めにあたり、もう一度「あいさつ」「掃除」「時間を守る」という基本的な生活習慣を自己点検しましょう。どれも当たり前のことだけど、社会に出るために必要な常識や基礎的な力であり、今の若者ができない、不足していると言われていることです。

① あいさつができる

あいさつがきちんとできないと、「あの人はあいさつもできない」と言われ大人としての常識を疑われます。社会に出たら一人前として扱ってもらえません。

小学生は元気に大きな声であいさつができます。でも中学生ぐらいになるとちょっと恥ずかしくなってあいさつができなくなります。しかし高校生になると「大人としてのあいさつ」ができるようにならないといけません。高校生のするあいさつは、小学生のするあいさつとは全く別物なのです。

朝出会えば「おはようございます」、授業の始めと終わりに「お願いします。ありがとうございました」、そして帰る時に「さようなら」、来校された方には「こんにちは」。相手に届くように、そして自然に気持ちよく「大人のあいさつ」ができるようになりましょう。

② 掃除ができる

学校の活動の中で、自ら進んで動き、他の人と協力し、自分の役割を果たすという場面はいろいろありますが、掃除もその一つです。

掃除がきちんとできる人になりましょう。製造業の職場では、「整理、整頓、清掃」の頭文字をとって3S活動と言って社員に徹底する企業が多くあります。掃除がきちんとできるというのは会社で働く上でとても大切なことなのです。掃除をするときには、自分は「どこをするのか」「何をするのか」「どんなふうにするのか」「どの程度まですればいいのか」を常に考える習慣を付けましょう。それが仕事のできる人になる第一歩です。

③ 時間を守ることができる

時間を守る上で大切なことの1つが遅刻をしないということです。社会人になれば、仕事の開始時間に遅れると、上司からきつく叱られるでしょう。商談などで約束の時間に遅れると大きく信用を失います。社会人になったらできるではなく、今のうちに良い習慣を身に付けることが大切です。

朝の遅刻に関して言えば、ぎりぎりに飛び込むのはあまり感じのいいものではありません。余裕をもって少し早めに行動することが大切です。時間を見て自分の行動を自分で管理できるようになることが大切です。

良い習慣は一生の宝です。社会人として必要となる常識や基礎的な力として「あいさつ」「掃除」「時間を守る」の3つを高校時代に身に付けましょう。

(校長 高橋信之)